

令和4年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

平均正答率は全国の目標値を、全学年において上回っている。このことから、昨年度の授業改善推進プランや日々の学習指導が効果的に成果を上げたと考えられる。

昨年度は、辞書を活用する場面を作り、言葉の意味を理解する時間を多く設けたり、叙述をもとにして自分の考えを表すように指導したりした。その結果、「読むこと」の領域において、正答率を伸ばし、成果がよく表れていた。

(2) 課題

標準スコア（全国平均を50としたライン）は、上回っているところが多いものの、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の項目が5・6年生では下回る結果だった。このことから、言葉の意味を理解していても、日常的に文章を書く際に、漢字を正しく使って書く力が弱いことが考えられる。また、定型文のような書き方になっているため、言葉を精選し、表現を吟味して書き表すことができていない。今後は、辞書引きで調べた言葉や文章中の表現を、自分で活用することに重点を置いて指導する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	
第5学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。（第4学年時）
第6学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。（第5学年時）

(2) 分析（観点別）

4年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の正答率は、目標値を上回っていたが、前学年の漢字の読み書きの問題では、目標値を下回っているものもあった。既習漢字を正しく書くことの定着が甘い。	選択問題は、目標値を十分に上回っていた。一方で、記述問題では、目標値を上回るものの、全体の正答率が7割程度と低い結果だったため、書くことに課題がある。	目標値を上回っているが正答率は低い。特に低い問題は、自分で文章を組み立てる記述式であるため、問いに対して思いや考えをもつことに課題が見られる。

5年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に目標値を大きく上回り、知識は概ね定着している。間違えやすい送り仮名を問われる問題の正答率が低かったため、送り仮名の指導に重点を置く必要がある。	選択問題は全体的によくできている。記述問題では、段落を分けて書くことの正答率が低い。段落分けや改行の意味を理解せずに書いていることが考えられる。	記述問題に対して自分の考えをもって書くことはできている。しかし、考えの根拠を示したり、共通点に着目してまとめたりすることには課題が見られる。

6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に目標値と同程度の結果と	全体的に目標値を上回り、特に記述	記述問題の正答率が高いため、立場

なっている。一部、正答率が低かった問題は、児童が使って書くことが少ない漢字の問題であるため、定着が甘かった。	問題の正答率が高い。一方で、推敲を問われる問題は、正答率が4割以下である。推敲の観点を理解していないことが考えられる。	や理由を示して意見文を書くことはできている。また、段落を分けて書くことも理解して正答することができていた。
--	---	---

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
平仮名やカタカナ、漢字の指導を丁寧に行い、小テストなどを実施して、定着を図る。助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解させる。拗音、長音、促音を正しく表記できるようにする。句読点や、かぎ（「」）の使い方を作文や日記等の指導を通して、繰り返し練習させ身に付けさせる。	自分の考えを表現するため、ペア交流の場を日常的に取り入れていく。自分で経験したことを、学んだ話型を使って話す習慣をつける。国語の時間だけでなく、朝の会や帰りの会で、順序や話型に気を付けたスピーチ活動を行い、全体の前での話し方を工夫できるようにする。	全体的な意欲は高いが、語彙力に課題がみられる。平仮名や漢字の学習をする際、毎時間、既習の平仮名や漢字で始まる言葉集めをする。国語の学習だけでなく、他教科や日常生活でも、言葉を意識させ、語彙力を豊かにする活動を取り入れる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の指導を丁寧に行い、小テストなどを実施して定着を図る。また、「書くこと」の達成率が一番低い傾向にある。日々の日記の活動や「書くって楽しいね」などの取り組みを通して、書く技能の向上を図る。	「調べた結果の表をもとに文章を書く」の値が低かった。算数や社会の学習と関連性が高いため、他教科の単元との調整をしながら時期のマネジメントを行い指導に当たる。	全体的に意欲は高く、学習に前向きな児童が多い。一方で、漢字の学習や書く活動に対して苦手意識をもつ児童も一定数存在する。日々の活動を通して小さな成功体験を積み重ね、苦手意識を減らしていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習漢字を使って文章を書くことに重点をおく。タブレットを使うことが増え、漢字変換に頼る場面が増えてきているため、活用力が低いのが課題である。自分で文章を書くときは、辞書で漢字を調べ、学習した漢字や表現を自分の文章に生かせるようにする。	段落への理解が弱い傾向にあるため、時折、原稿用紙を使い、文章のまとまりを意識して書く時間を設ける。また、書いた文章を読み直したり、よりよい表現を吟味したりする活動を通して、推敲する力を高めていく。	書くことへの抵抗感は改善傾向にあるものの、いまだに苦手意識が強い児童が一定数いる。書き出しの表現を示したり、文章構成の型を指導したりすることで、苦手意識を減らしていくように工夫する。

